

防災



小学校高学年

中学校

高校

社会

総合

クローズアップ現代  26分

首都直下 震度7の衝撃 ～どう命を守るか～

(2012年放送)

この番組の良さ



首都直下地震の被害想定を知る

2012年4月、東京都は、首都直下地震の被害想定を発表しました。最大震度7の巨大地震により、住宅の倒壊や火災の発生、液状化、津波などの甚大な被害が起ると予想されています。

番組の視聴により、これらの被害想定を、CGや実験映像、インタビューや解説などを通して詳しく知ることができます。

自分たちの命をどう守っていくのか

番組では、自助・共助の必要性和大切さ、その実現に向けての動きが紹介されています。被災地に支援の手が届かないという衝撃的な事態が予想される中、各地で始まっている新しい取り組みや、今すぐにも個人で始められる具体的な対策を知り、地震にどう向き合っていけばよいかを考えていくことができます。

番組活用のポイント

地震を切実なものとしてとらえられるようにする

地震列島日本に住む私たちにとって、東日本大震災は、防災対策だけではなく、協力や助け合いなどについて考えるきっかけにもなりました。本番組の視聴により、首都直下地震の被害想定とその対策などを知るだけでなく、地震を、自分たちにも関わりのある切実な問題としてとらえられるようにしていくとよいでしょう。首都直下地震や東海、東南海、南海地震など、近い将来起こると言われる大地震に対して行政側の対策や取り組みに期待するばかりでなく、私たちが自らできることを考えていくようにすることが重要です。

「自助・共助・公助」について考えるきっかけに

番組では、被害や混乱を軽減するために求められる備えや対策などが紹介されています。また、住宅の耐震化を考える家庭や、行政（公助）に頼らず独自に避難ビルを探す自治会、連携して対策を模索する企業などの取り組みも紹介されています。これらの自助、共助の備えは、どの地域においても進めていくことが大切です。番組を視聴することにより、地震を恐れるばかりでなく、自分や地域の人々の命を守るために、地震とどのように向き合っていけばよいか、そして、自分たちの地域でできることは何かを考えていく展開にしていくとよいでしょう。

より深く考えるために

防災教育をさらに推進していくためには、首都直下地震以外にも、様々な内容の学習を進めていくことが効果的です。ティーチャーズ・ライブラリーの関連番組『巨大津波が都市を襲う～東海 東南海 南海地震～』（P.46）や『防災力クライシス そのとき被災者を誰が救うか』（2012年度版P.30）、『津波～迫り来る水の恐怖～』（2012年度版P.32）なども合わせて視聴するとよいでしょう。